



陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和32年12月号から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返ってまいります。

私の天理教に求めるもの

天理教よ、永遠に若かれ

平澤 興

(昭和三十二年当時
京都大学医学部長)



ある秋の日の午後のことである。四人の学生が芝生の上で晴れた陽光を浴びながら盛んに議論を戦わせている。聞くともなしに聞いていると、人生についての極めてまじめな話である。その中に、たまたま宗教についても話していたが、その会話にはなかなか聞くべきものがあつた。ちょっとその一部を拾ってみよう。

A 「僕は宗教なんて、とにかく虫がすかん。宗教家なんて、みんな偉そうに、何事についても割り切つてものを言うが、本当に腹の底から分つているのか。とにかくあの独善的な態度が気に入らぬ。ああ高飛車にものを言われては、考える余地も何もないではないか」
B 「宗教家がとかく独善的だということとは僕も同感だ。実

際あまりにも味のないもの、言い方をしているが、それは君、やっぱり本当に分つておらぬ人が多いからじゃないか。生臭いものが、自分の生臭さに気づかずに偉そうなことを言うから、そういうことになるのじゃないか。しかし一つ、僕は君に反対したいのは、独善的な言い方をされるので、考える余地がないということだ。それは違う。いかに独善的に言われても考えるか考えないかは、聞く人の方に百パーセントの自由があるのじゃないか」
C 「考える自由については、僕も全くB君と同感だ。考えるということとは、そういうことなのだ。考えるということとは、色々の材料をもとにして、捨てるべきものは捨て、足らぬところは自分で補つて、ものそのもののあるべき姿、ものそのものの真相を頭の中で求めることだ。これは本来いかなる人も、ほかから邪魔できないものだ。ただし、人間がしっかりといて自主性を持つ限りにおいてだネ」
D 「なかなか話がむずかしくなつてきたな。しかし、面白い。僕は思うのだが、確かに何人も思考の自由は持っている。しかし、考えると言つても、科学的な考え方と宗教的な考え方には多少違ふところがないかな。科学思考の場合には、材料が足らぬ場合、実験とか、ほかから材料を集めることが出来るが、宗教的思考の場合には、何としても、ただそこから材料を集めるのでは不十分で、深い体験を通じた宗教的な感覚といったものが必要ではないか」
C 「D君の説には僕はある程度まで賛成する。しかし、宗教といつても、実は表現が粗末なので、宗教学というふうな立場と、生きた信仰というふうな立場とで、ずいぶん違う点があると思う。いずれにせよ、普通の科学のように単に第三者的な、あるいは客観

的態度というようなことだけでは宗教的なものの本質を論じたり、奥へ入つたりは出来なかつたろうが、特に生きた信仰面ではそうじゃないか。どの宗教にも、もちろん依つて以て立つべき土台はあるだろう。しかし、血の通つた生きた信仰では、そんな理屈っぽいものよりも、もつと身近な生きた宗教的感覚というか、宗教的感激が必要なのだ。暴論かも知れないが、僕は言葉とか儀式とかの表面を通り過ぎて、宗教の奥の奥まで突つ込めば、どの宗教だって、一番大事なものは共通なのじゃないかとさえ思う。これはちよつと我流すぎると思うが、実際僕には、そんなふうになんて思えない。キリスト教だって、仏教だって、神道だって、空念仏式な信じ方でなく、本当に宗教を身につけて日常の行住坐臥の間に信仰をこなせば、信仰人の生き方には、宗教が違つても、非常に似たことになるのじゃないか」
B 「なかなか面白い考えだよ。そうだろうな。日々の生活の中に宗教がとけこめばネ。それぞれに宗教に、ちよつと見たところ、大いに違いがある

のは、それぞれ各宗教の生い立ちに、時代や、国土や、教祖の性格や、その発展に違いがあるからじゃないか」
A「それはメイ論だ。ただし、メイは迷うのメイだよ。が、実は僕もそんな気持がするんだ。しかし、どの宗教もたいがい葬式仏教じゃないか」
D「葬式仏教？ 妙な言葉で君は発明するネ」
B「葬式には役立つが、人生には用がないという意味だよ」
C「そういえば、そうだな。もつと血みどろな姿でわれわれ若いものを救ってくれる宗教はないものかな」
D「そうだ。これからの宗教は、年を取ってから念仏するような宗教ではなくて、若いものをぐんぐん引張っていくような宗教でなければ駄目だな。そういう宗教がほしいな」
C「しかし、僕らのようなものには、どんな宗教もだめだよ。縁なき衆生かな、さあ帰ろう」
 若人らしい勝手な話ではあったが、なかなか面白かった。彼らは一見、宗教などというものに何の関心も持たぬようだが、決してそうではない。

関心は持っているのだが、彼らを信仰に導き入れる熱と頭が足りないのだ。確かにどの宗教も教祖はすばらしいのだが、だんだんと形式的になってしまふのだ。教祖が持つておられたような魔力がなくなるのだ。魔力——接する人間をとかさずにはおかぬ教祖の熱である。信仰生活の態度である。

若いものを引き付ける宗教が将来の宗教である。伝統の殻の中で窒息せずに、教祖の教えの中に深呼吸する宗教のみが大きな将来を持つ宗教である。いかに年が経とうとも、生きている宗教は永遠に若く、永遠に独創的で、永遠に奇蹟的である。
 天理教よ、永遠に若かれ！

目下制作中

マンガ

おびや許し

今夏発刊に向けてがんばってます

作画…金巻とよじ

図書出版 養徳社 フルカラー 予価：200円

『陽気』 定期購読

お店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。

毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。(例：7月号は6月20日)

まずはお問い合わせください。

定期購読料金 1年分…3,420円 (送料込)

購読に関する問合せ先 ☎0120-920-398 養徳社 業務部窓口

養徳社の一押し書籍

22年ぶりの大幅加筆!

【改訂増補】篠田欣吾著 こころのさんぽ道

信仰するということは、教えを頭で理解すればいいということではありません。日々の生活を教えにのっとって律することです。それを具体的な生活の場面を通して提示したのが本書です。

¥1,296円 (税込)

人間がたすかる原理

「天の理」を解きほぐす 中臺勸治著

道の教理を「誠一つが天の理」「二一つが天の理」「順序一つが天の理」成って行くのが天の理の四つのワケ組みに整理することで「たすけ」のメカニズムが鮮明になってくる。

¥1,404円 (税込)

思い出のスケッチ

—伝道ゆかりの地めぐり—

青山文治著 絵と文で魅る、伝道ゆかりの地。教祖のお姿と先人の白熱的な信仰。

¥1,512円 (税込)

消えたヤシの実一万個

緑を失った沖繩を美ら島に 太平洋をこえた「ひのきしん」 ハワイから届いたヤシの実一万個。

小滝 透著

¥1,296円 (税込)

【悩み】の今日を「幸せ」の明日へ変える

幸せを呼ぶ言葉

心に喜びがわき、幸せの輪が広がってくる。この世に生きる歓喜と素晴らしさを呼びさます。

榮嶋憲和著

¥756円 (税込)

※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。1冊送料200円 図書出版養徳社 業務部窓口 ☎0120-920-398

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
 <書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部